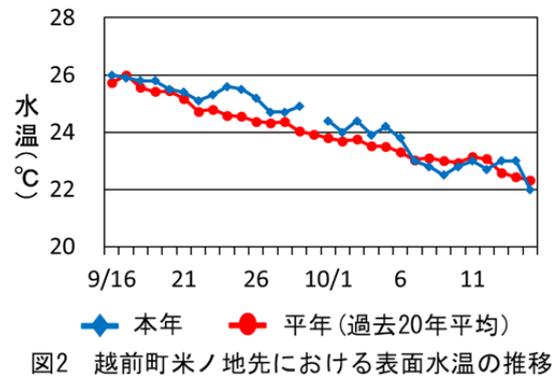
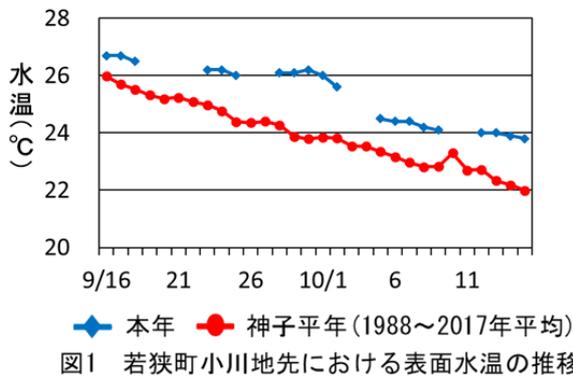




〔海の状況 (9/16~10/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通じて神子平年よりやや高め (平年差 0.5℃~1.0℃) からはなはだ高め (平年差 1.5℃~) で推移した。(図1)
※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通じて平年並み (平年差±0.5℃) からやや高め (平年差 0.5℃~1.0℃) で推移した。(図2)



〔若狭湾および周辺海域の海況：9月〕

9月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(水深0m)では、若狭湾西部沿岸で28℃~と前年より水温が高くなっていた。水深50mでは、若狭湾沿岸で22℃~24℃と前年より低いが、沖合で18℃~22℃と前年より水温が高くなっていた。水深100mでは、山陰・若狭沖冷水域の規模が前年より縮小していた。水深200mでは、若狭湾沖で10℃~14℃と前年より水温が高い範囲が見られた。(図3)

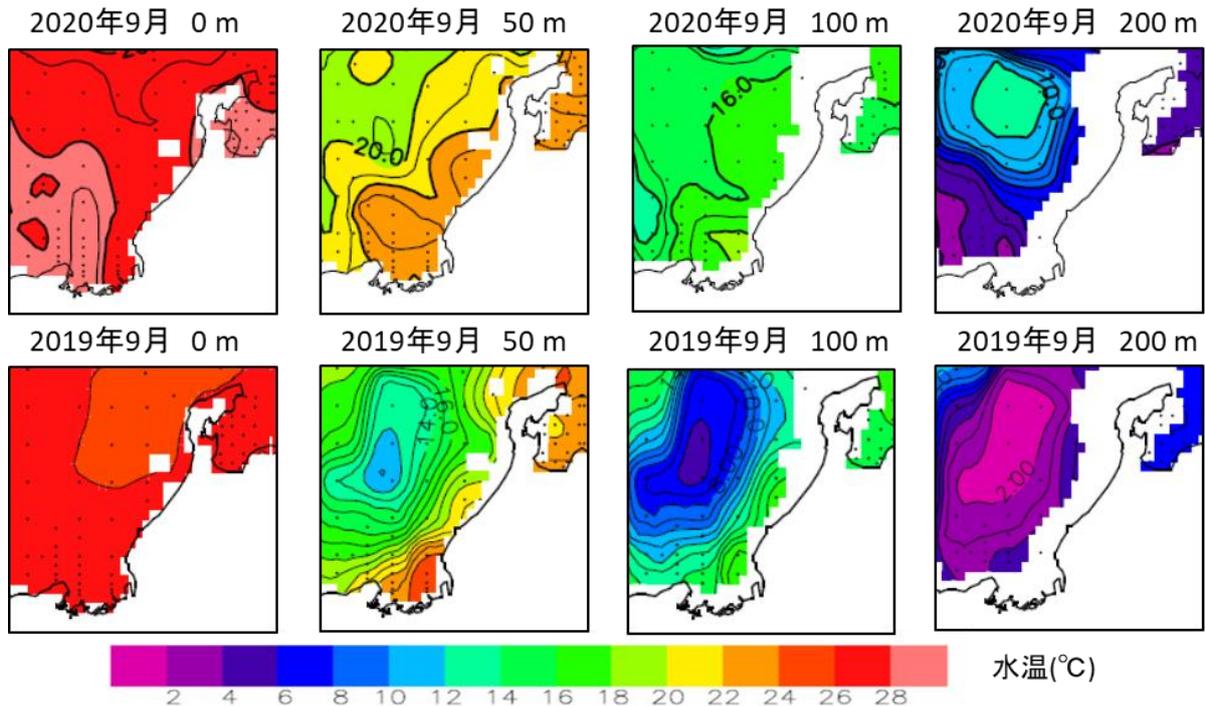


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

2020年度 第3回 日本海海況予報

水産研究・教育機構 日本海区水産研究所から発表されました見出しの予報に、今後（11～12月）に関する情報がありますのでご紹介します。

○山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模はやや小さく、接岸状況はやや離岸で経過する。

○対馬暖流域の表面水温は、平年並みで経過する。

○対馬暖流域の50 m深水温は、日本海北部および西部ともにやや高めで経過する。

この予報は日本海区水産研究所ホームページ (<http://www2.fra.go.jp/xq/>) から閲覧できます。

(漁場環境グループ 長島 拓也)

〔県内の漁模様：9月〕

2020年9月の県内の総漁獲量は807 tで、前年同月を355 t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は591 tで、前年同月を173 t下回った。アオリイカ、ケンサキイカ、マグロ類等は上回ったが、シイラ、サワラ、サバ類等は下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は187 tで、前年同月を111 t下回った。その他エビ、キダイ、ヤリイカは上回ったが、アカガレイ、ニギス、アカエビ等は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は29 tで、前年同月を70 t下回った。ケンサキイカ、マダイ、アオリイカ等は上回ったが、スルメイカは大きく下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(9月)

定置網 (kg)						底びき網の続き (kg)					
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差	魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
マイワシ	72	490	481	-418	-408	アカガレイ	24,605	76,196	81,688	-51,591	-57,083
ウルメイワシ	928	354	665	574	264	その他カレイ	14,488	16,954	31,622	-2,467	-17,134
カタクチイワシ	166	1,099	3,746	-933	-3,580	アナゴ	3,966	7,163	5,154	-3,197	-1,188
アジ類	20,513	20,177	45,185	336	-24,672	ハタハタ	304	1,118	1,613	-814	-1,308
サバ類	10,551	31,960	19,391	-21,409	-8,840	メバル類	1,241	1,130	1,276	112	-35
マグロ類	4,478	591	866	3,887	3,613	ニギス	4,775	27,564	10,750	-22,789	-5,974
ガジキ類	2,866	4,937	9,546	-2,071	-6,680	スルメイカ	1,438	4,636	2,250	-3,198	-812
カツオ類	3,868	350	2,099	3,518	1,769	ヤリイカ	2,082	636	1,556	1,446	526
ブリ類計	42,343	101,281	97,218	-58,938	-54,875	コウイカ	353	72	232	281	121
(ワラサ)	193	4,755	2,769	-4,562	-2,576	タコ類	1,620	4,346	5,774	-2,726	-4,154
(ハマチ)	3,284	20,028	15,016	-16,744	-11,732	アカエビ	73,274	92,798	71,019	-19,523	2,255
(ツバス)	15,181	32,398	57,260	-17,217	-42,079	その他エビ	5,502	3,570	5,378	1,932	124
(アオコ)	23,669	44,082	22,037	-20,413	1,632	その他	40,278	50,726	76,850	-10,447	-36,572
ヒラマサ	2,463	15,749	8,807	-13,286	-6,343	合 計	187,428	298,612	309,052	-111,184	-121,624
シイラ	212,138	277,538	123,771	-65,400	88,368						
サワラ	253,123	283,748	443,610	-30,625	-190,487						
マダイ	994	1,667	2,185	-672	-1,190						
スズキ	1,727	2,365	2,354	-638	-626						
ヒラメ	157	336	287	-179	-130						
カマス	1,741	2,492	16,687	-751	-14,946						
フグ類	1,312	189	5,246	1,123	-3,935						
タチウオ	287	63	333	224	-46						
アオリイカ	10,833	4,640	7,824	6,193	3,008						
ケンサキイカ	7,384	2,170	6,574	5,214	810						
その他	12,640	11,750	17,665	891	-5,025						
合 計	590,585	763,946	814,538	-173,361	-223,953						

底びき網 (kg)					
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
マダイ	344	535	1,305	-191	-961
キダイ	12,278	10,564	11,632	1,714	646
アマダイ	879	605	954	274	-75

釣りと、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
マダイ	1,007	684	1,827	323	-820
キダイ	5,215	7,302	7,243	-2,088	-2,028
アマダイ	2,667	3,768	4,436	-1,101	-1,769
メバル類	649	949	2,703	-299	-2,053
スルメイカ	50	62,049	12,170	-61,999	-12,120
アオリイカ	1,092	804	1,362	288	-271
ケンサキイカ	915	34	4,203	881	-3,288
ソデイカ	253	1,796	7,554	-1,543	-7,300
タコ類	2,219	2,572	3,113	-354	-895
その他	14,700	19,294	26,634	-4,594	-11,934
合 計	28,766	99,252	71,244	-70,487	-42,478

全漁法 (kg)					
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
合 計	806,779	1,161,810	1,194,834	-355,032	-388,055

※1 平年の値は2009-2018年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 ニギスの平年値は2015-2018年の4年平均です ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：9月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：9月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：9月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：9月中旬～10月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…サワラ類6.6 t、フクラギ・コゾクラ2.9 t、シイラ2.8 t、マアジ1.4 t、サバ0.7 t、カマス0.5 t

京都府…定置網…サワラ類6.1 t、シイラ3.3 t、サバ類0.7 t、ツバス0.7 t、マアジ0.6 t、カワハギ類0.5 t

兵庫県…定置網…スズキ14 kg、カワハギ4 kg、マアジ3 kg、イシダイ2 kg、ヒラマサ2 kg、イサキ1 kg

鳥取県…まき網…マイワシ23.0 t、カタクチイワシ10.7 t、ウルメイワシ7.0 t、ブリ類4.6 t、マサバ2.9 t

(漁場環境グループ 長島 拓也)

「越前がに」の資源状況について

今年も、11月6日に福井が誇る「越前がに」漁の解禁を迎えます。6月に調査船「福井丸」で実施したトロール調査結果等を基に、本県沖合のズワイガニ資源量を推定しましたので、お知らせします。

漁獲動向（図1）

福井県底曳網漁業協会の集計による漁獲量の経年変化は、最低であった昭和54年度以降は増加傾向となり、近年は400～500tで推移しています。令和元年度の漁獲量は、362tで、平成30年度を42トン下回りました。

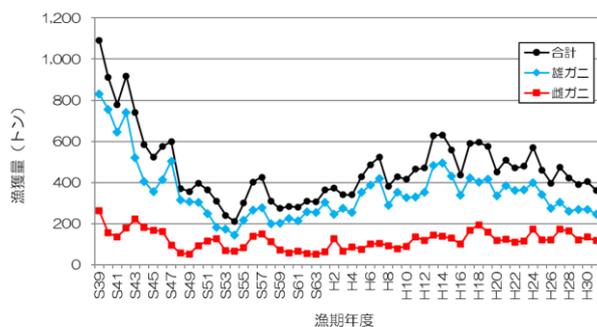


図1 ズワイガニ漁獲量経年変化

資源状況（図2）

雄についてみると、今漁期の漁獲の主体となる12歳の資源水準は昨漁期をやや下回り、今漁期から水ガニとして漁獲の対象となる11歳の資源水準も同様にやや低い状況にあると考えられます。今漁期に漁獲対象となる雄の資源量を推定したところ、1,499tと算出され、昨漁期を下回りました。

また、雌についてみると、今漁期から漁獲の対象として加入するクロコ（経産ガニ）の資源水準は昨漁期より高い結果となりました。今漁期に漁獲対象となる雌の資源量を推定したところ、昨漁期を上回る395tと算出されました。

雄雌ともに令和4年漁期に漁獲加入する8歳等はやや豊度が高いと見込まれることから、今後、これら若齢個体の保護が大切です。

漁模様

今漁期は、漁獲の主体となる雄の資源は昨年を下回っており、雄の漁獲量は“昨年をやや下回る”と見込まれます。

一方、雌の漁獲量は“昨年をやや上回る”と見込まれます。

（漁業管理グループ 瀬戸久武）

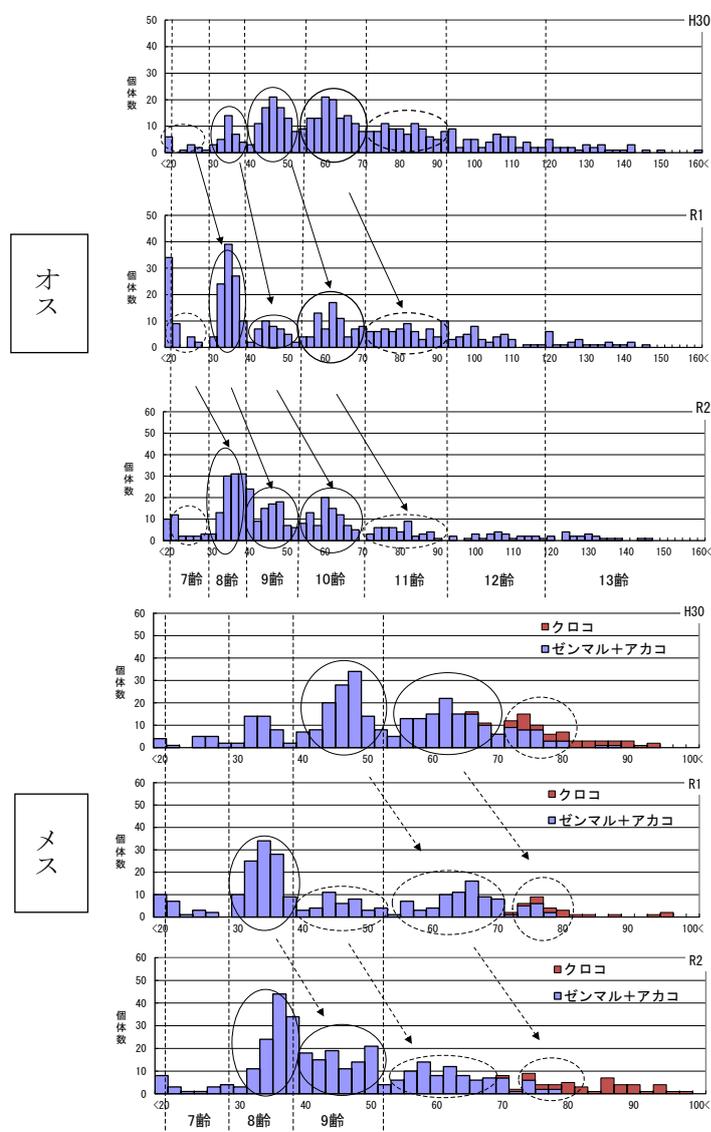


図2 トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成 (X軸：甲幅 mm Y軸：個体数)